

## 【数字を読み解く】 マイナス33.7

～大分税関支署管内の名目輸出額 伸び率のマイナス幅縮小、中国向けなどが寄与～

<2020/10/2 大分合同新聞掲載>

数字は、財務省が毎月公表している「貿易統計」にある、7月の大分税関支署管内における名目輸出額の前年比伸び率だ。これは、日本から外国への輸出のうち、大分税関支署管内の4官署（大分港、大分空港、津久見港、佐伯港）に申告された輸出額の合計を指す。県内で生産された製品であっても、大分税関支署管外の港湾（門司港や関西の港など）から輸出された場合には、本数字には含まれない。

大分税関支署管内の名目輸出額は、新型コロナウイルス感染症の影響から、3月以降大幅に減少し、5月には前年比マイナス39.7%まで低下したが、7月は同マイナス33.7%となっている。この間のマイナス幅縮小に寄与したのは、品目別にみると非鉄金属、有機化合物、鉄鋼など、国別にみると中国、韓国などである。特徴的な動きとしては、①いち早く社会経済活動を再開した中国向け輸出が3か月連続で前年を上回っていること、②産業界で幅広く利用され、景気の先行指標としても注目される銅を含む非鉄金属の7月の輸出額が前年比プラス21.8%と増加していることが挙げられる。

足もとでは、国内・海外とも徐々に社会経済活動が再開されていることから、県内製造業の生産活動は持ち直しているが、今後の動向を見ていく上では、輸出の動きを注意深く確認していく必要がある。（日本銀行大分支店）